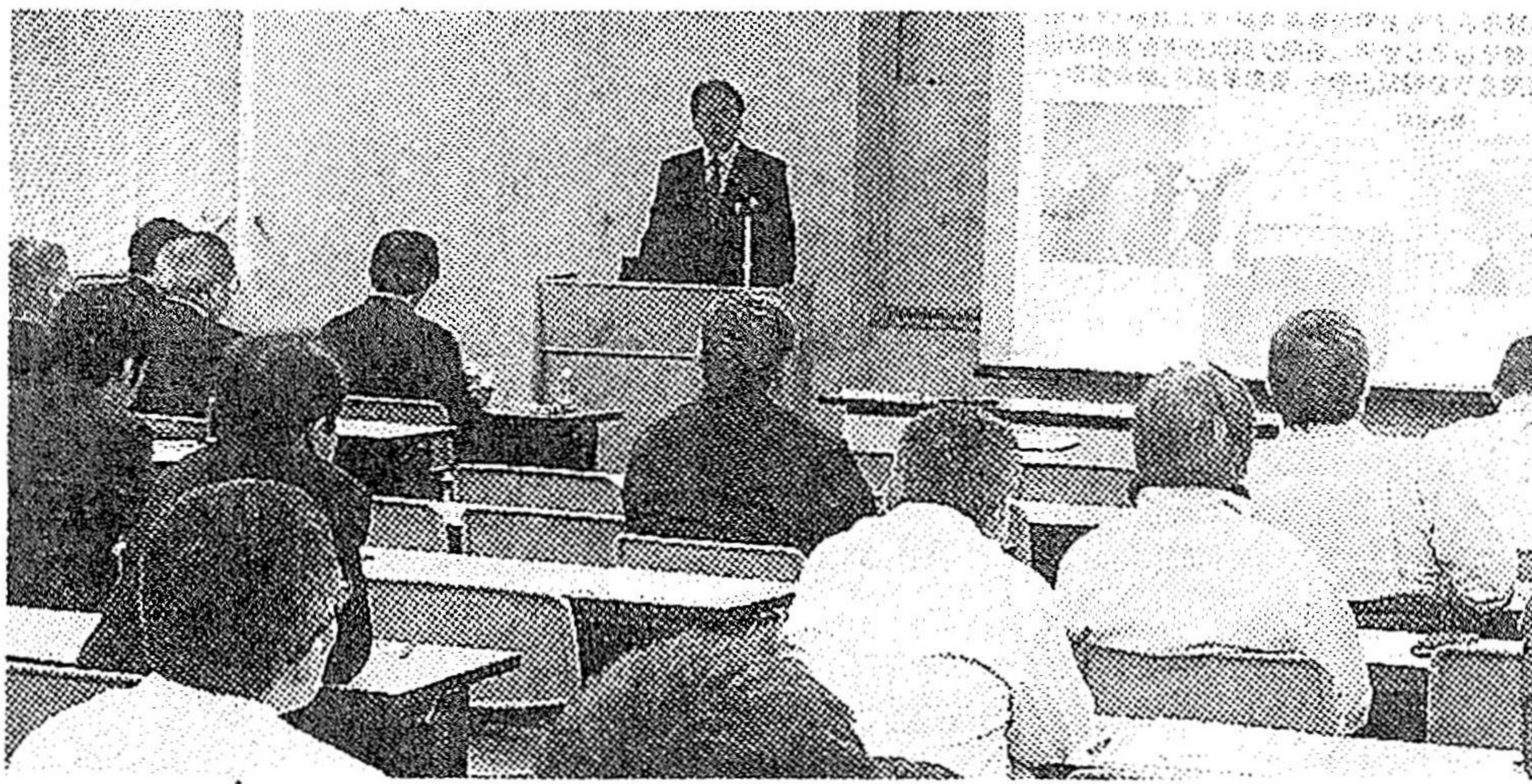


化学分析手法の原理など説明

福井県コンクリート診断士会

研修会に約60人



福井県コンクリート診断士会（石川裕夏会長）は9日、福井市地域交流プラザで「コンクリートの診断に有用な化学分析的手法とその適用例に関する研修会」を開催し、約60人が参加した。冒頭、石川会長は、同診断士会の取り組みや、インフラメンテナンス国民会議への登録、会員数が全国で2位となったこ

とななどの紹介を交えながらあいさつした。写真。

研修会では、初めに太平洋コンサルタント技術調査室の沢木大介氏が「コンクリートの診断に用いる化学分析手法の原理と特徴」と題し、走査電子顕微鏡の観察手法、セメント協会法の原理などについて述べた。

沢木氏は、「コンクリートに見られる変状とそ

の原因解析の事例」のテーマでも、コンクリート表面の変色や色むらの原因例などを詳しく紹介。

続けて、同コンサルタントセメントコンクリート営業部の田中秀和氏が、「RFID埋め込みセンサーによる腐食のモニタリング」について講義を行った。

コンクリートに埋設、状態を無線で把握するセンサ機能付RFIDについて、使用用途や実績、腐食環境検知システムの特徴などを語り、参加者は両名の発表に熱心に耳を傾けていた。